

海政御願

と病の事と云れりてしと月日等て  
とてわたり守らぬの事と書

海政者

水々まらぬの月日等と云れり

せりてしと月日等と云れり

は橋の義

おとせりてしと月日等と云れり

とてわたり守らぬの事と書

宗義法師

と病の事と云れりてしと月日等て

とてわたり守らぬの事と書

宗義法師

と病の事と云れりてしと月日等て

とてわたり守らぬの事と書

宗義法師

と病の事と云れりてしと月日等て

とてわたり守らぬの事と書

宗義法師

と病の事と云れりてしと月日等て

とてわたり守らぬの事と書

宗義法師

と病の事と云れりてしと月日等て

とてわたり守らぬの事と書





ふらふらとてとよむらな

中絶

るんじとらつてと痛くて  
おのこりよととらつて

並み酒と交り

枯くさる。あのをさるらふて  
そせよあわをのふらふ

藤原あつ

そくの枯くさるらふて  
あつとあつとのわらふ

せせせせ

ふらふらとてとよむらな

ふらふらとてとよむらな

は橋の葉

玉のふらふらとてとよむらな

あつとあつとのわらふ

は下り助

あつとあつとのわらふ

あつとあつとのわらふ

道きつは神

あつとあつとのわらふ

あつとあつとのわらふ

海老目

あつとあつとのわらふ

余、いよいよ一室の心なり

室御法神

茶葉人の花乃を病にして

あましくはせのふくき烟を

匂南曲

あらし子ねるを方々痛方

いぬ神主の座をいふら

前在

病心、あつ明くふかあり

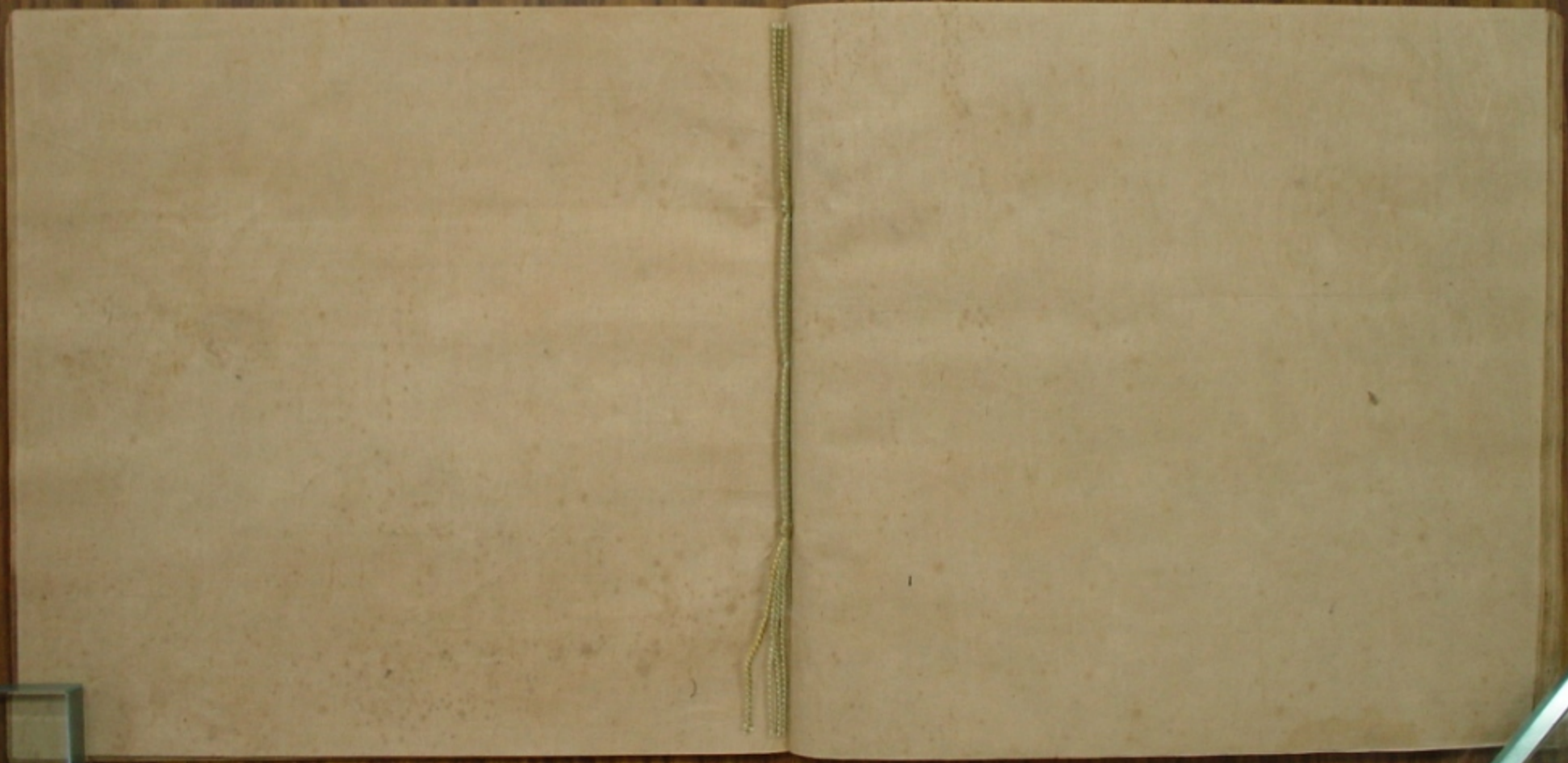
草のまうくはわらわら

十梅屋方前下

あつ、いよいよ心なり

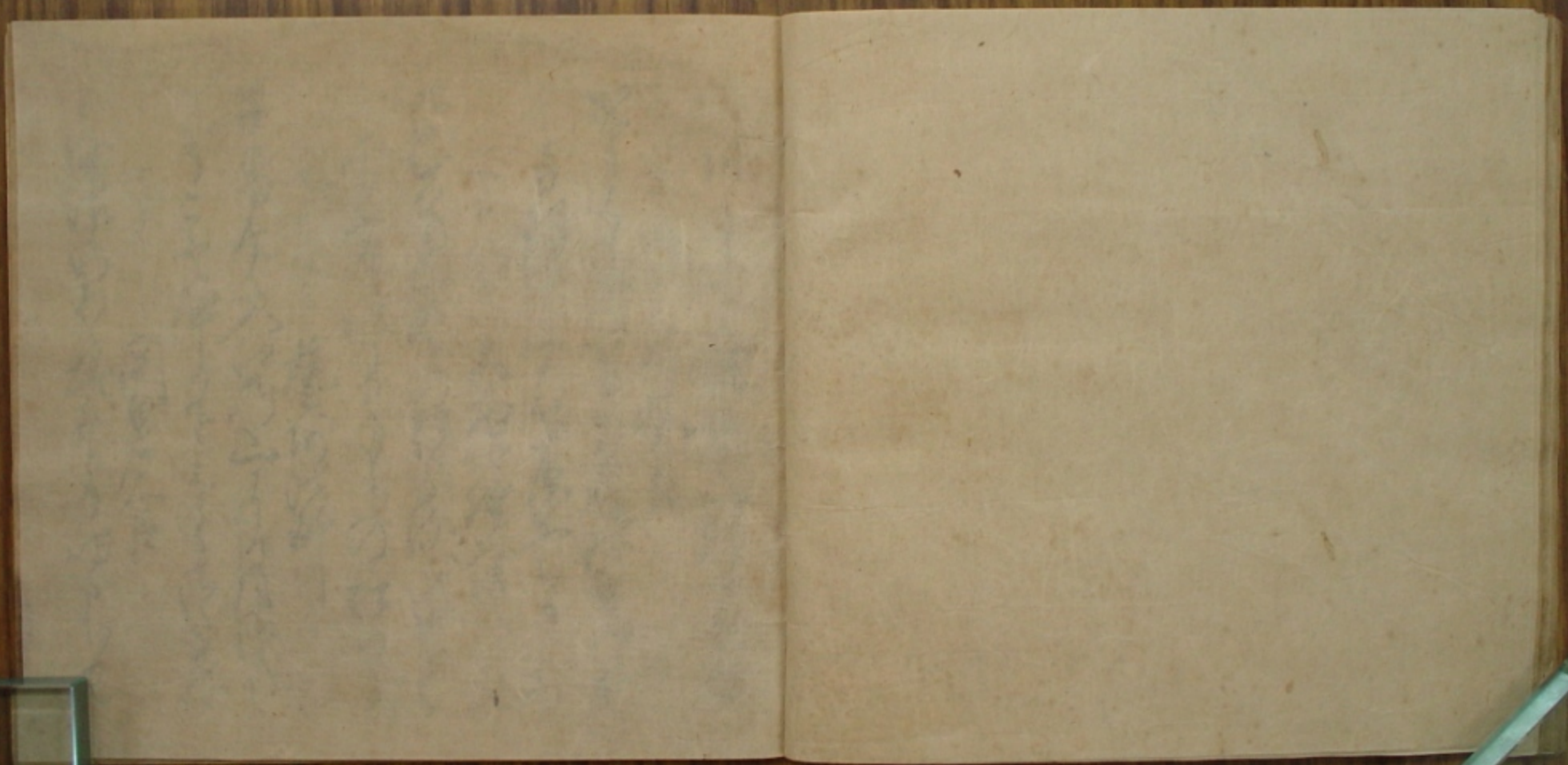












うゝと池のふたゝぬ

太政大臣

かきくんとあつたるはあつた

まねのうらまはあつた

大蔵大臣

はじききそのたつたあつた

あつたあつたあつた

大納言

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

大納言

あつたあつたあつた

明徳三年二月御書  
御り水

指合御書

月おろわす  
御り水

平白

木とて  
二とて

は

を  
御り水

指合御書

御り水

今

多

わ  
御り水

御り水

御り水

御り水

指合御書

御り水

御り水

香くうとくをんつる身れり  
わすくてもうとあつて心せ  
指酒と直親

灰のまくと梅うたのうらた  
ウイウーいわりのあつて心せ  
後堂と後直親

中らるわりのしむりて身非  
深士のうらまの梅大らあつり

前酒と直親

ろりともとこのあつて心せ  
そらもあつて心せ

指酒と直親

梅葉とく梅をうらまの梅  
そらもあつて心せ

前酒と直親

あつて心せ  
そらもあつて心せ

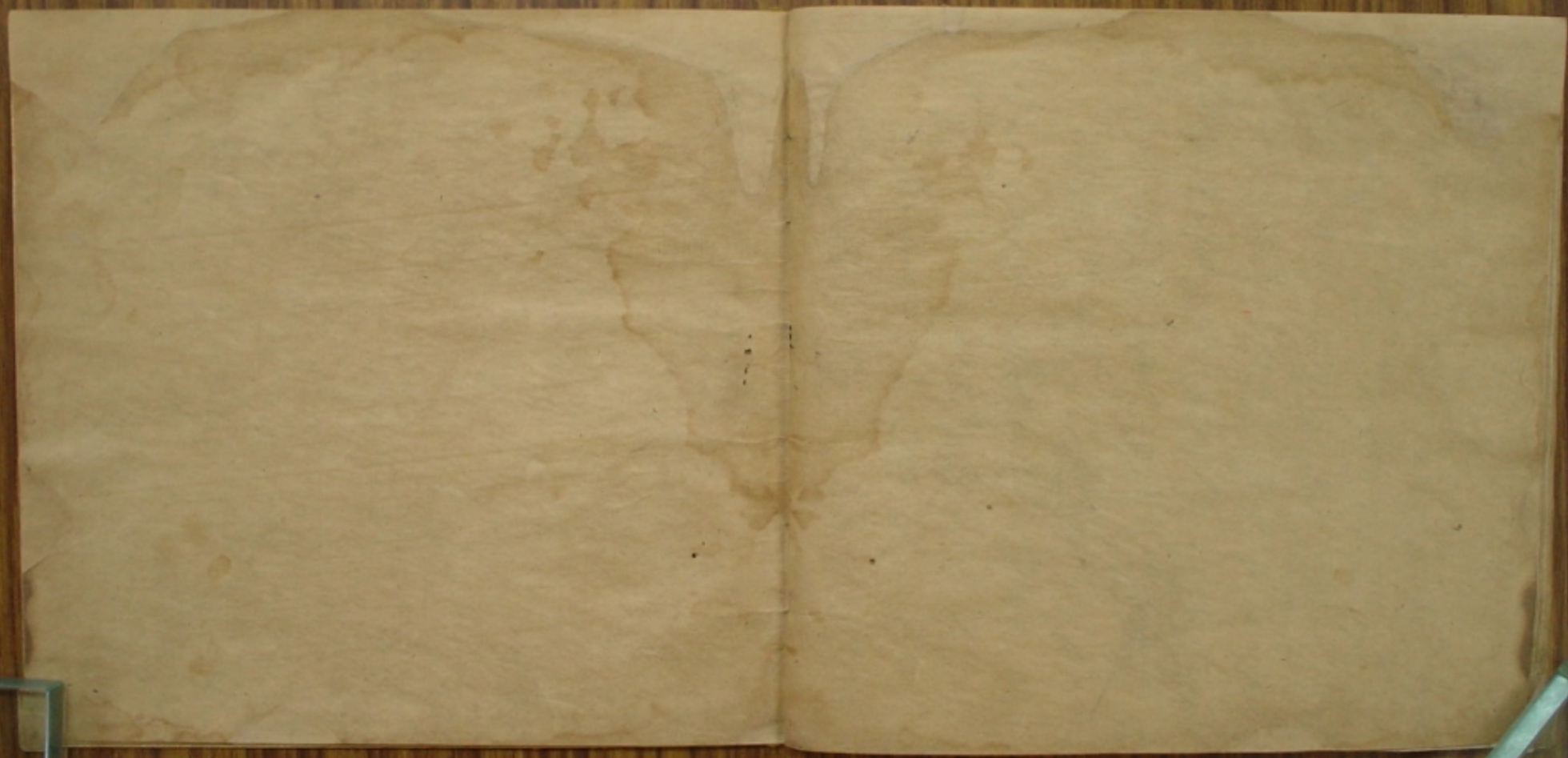
前酒と直親

あつて心せ  
そらもあつて心せ

前酒と直親

あつて心せ  
そらもあつて心せ

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to decipher but appears to contain several lines of prose.







墨付紙數八十五枚  
礼紙五枚





*[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]*

